

夢や希望をはぐくみ、未来に憧れる自己イメージを獲得するための手立て

－ キャリア教育の視点を生かした学級活動の取り組みを通して －

所属校：品川区立大井第一小学校

氏名：小川 浩一

派遣先：東京学芸大学教職大学院

キーワード：キャリア教育・学級活動・係活動

I 研究の目的

現在の社会は、子供たちの進路をめぐる社会環境が大きく変動し、失業率は依然として高く、フリーターも増加傾向にある。また、若者自身の精神的、社会的な自立の遅れからくる様々な問題も表面化してきた。

この状況を受けて、平成11年12月に中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において、「キャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）」という文言が登場した。

望ましい職業観・勤労観を養うためには、小学校から高等学校までの発達段階に応じて、子供が自己と社会との関係を理解していく必要がある。特に小学校段階は、様々な活動を通して、自分の目標を設定すること、その達成を目指して工夫し努力することの大切さを体得させることで、自信や有用感を高め、将来設計の基盤となる「夢や希望」を育てることが重要である。そして、そのためには「自分はこんな人間になりたい」という「未来に憧れる自己イメージ」を子供自らが獲得することが大切である。

しかし、小学校の教員の実態をみると、「小学校段階では早すぎるのではないか」という声が聞かれるように、キャリア教育についての理解や実践への意識が十分であるとは言えない。

そこで、本研究では、小学校段階における子供の夢や希望をはぐくみ、未来へ憧れる自己イメージ獲得へ向けて必要と思われる教師の指導の手立てについて、望ましい職業観・勤労観を身に付けさせるという「キャリア教育」の視点を生かした実践を通して検証していきたい。

II 研究の方法

- (1) キャリア教育における、発達段階に応じた教育内容について整理する。(基礎研究)
- (2) 所属校において、教師・児童のキャリア教育に関する意識調査を行う。(調査研究)
- (3) 基礎研究及び調査研究をもとに、学習指導案や活動計画案を作成し、実践する。

- (4) 授業記録、常時活動の記録及び事後の意識調査の分析を行い、実践した授業の有効性を確かめる。

III 研究の結果

1 キャリア教育で育成する能力の整理

キャリア教育の理論の創始者であるパーソンズの職業選択の理論を基に、望ましい職業観・勤労観を養うために必要な能力についてまとめられたものが、右記の国立教育政策研究所生徒指導研究センターが示した「児童・生徒の成長の各時期に身に付けることが期待される8つの能力」である。

領域	身に付けさせたい諸能力
人間関係	【自他の理解能力】
形成能力	【コミュニケーション能力】
情報活用能力	【情報収集・探索能力】 【職業理解能力】
将来設計能力	【役割把握・認識能力】 【計画実行能力】
意思決定能力	【選択能力】 【課題解決能力】

2 教師・児童の意識調査の結果から

まず、教師のキャリア教育の必要性の認識については、約8割が「必要である」と感じている。しかしながら、実際にキャリア教育に取り組んでいるかという質問に対しては、「計画してみたい」と考えているものの、「既に取り組んでいる」と答えている教師は少ない。

キャリア教育を進める上での課題については、「時間の確保」「プログラムの開発」「キャリア教育に関する専門的な知識の充足」の3つが飛び抜けて高い数字となっている。

このことから、キャリア教育の意義や内容を広く伝え、現場に浸透させる手立てを一層工夫していかなくてはならないこと、また教師の果たすべき役割を明確にすることが大切であることが分かった。

次に、児童の意識調査からは、キャリア教育を進める上での課題として、学校生活を通して、自己有用感を実感できるような手立てを講じていく必要が浮かび上がってきた。

3 検証授業の構想

以上の調査研究から、キャリア教育として、学級単

位で取り組むことができ、日常、継続的に行うことのできる実践として、学級における係・当番活動に着目することにした。

これは、毎日の生活の積み重ねが、見通しをもった生活の土台となり、子供の望ましい職業観・勤労観を育成及び、教師のキャリア教育の意識化や、教師の果たすべき役割の明確化にも繋がると考えたからである。

先に述べたように、キャリア教育において小学校段階では、社会人として必要な自律性や社会性を育てるという将来の進路選択への基盤形成の時期として大切な時期であり、そのためには「身の回りの仕事や環境への関心・意欲」を高めることが重要となる。今回の学級活動特に係の活動では、キャリア教育で付けたい8つの能力に照らして次のように具体的な子供の姿に置き換え、活動の中に組み入れていくことにした。

係活動で目指す子供の姿	活動することの喜びを味わう	【① コミュニケーション能力】 友達とかかわり合いながら活動することのよさを知る。
	小集団で活動する楽しさを知る	【② 計画実行能力】 見通しをもって活動できる。
	創意工夫して活動する楽しさを知る	【③ 意思決定能力】 主体的に活動を展開することができる。
	役割分担の大切さが分かる	【④ 自他の理解能力】 活動から自分自身を振り返ることができる。

4 検証授業の実際

(1) 係の仕事を決める場面

→【②計画実行能力】【③意思決定能力】を育てる

活動の重点

低学年	ア 「自分がやって楽しい」「みんなのために役立つ」の観点で、学級に必要な仕事探しを行う時間を設ける。
	イ 子供の仕事の希望を大事にし、希望が重なってもできるだけ実施するようにする。
中学年	ア 当番活動と係活動を分けて定義する。
	イ 係活動については「自分がやって楽しい」「みんなのために役立つ」の観点で、学級に必要な仕事探しを行う時間を設ける。
高学年	ア 当番活動と係活動を分けて定義する。
	イ 係活動については「クラスに役に立つ」「仕事内容が全員に分かるようにする」という観点から、学級に必要な仕事探しを行い、組織作りを行う。

(2) 係の活動を振り返る場面

→【①コミュニケーション能力】【④自他の理解能力】を育てる

活動の重点

低学年	ア 「仕事チェックシート」や「お客様の声カード」を
-----	---------------------------

	活用し、常時の活動を振り返る時間を設け、自己評価、相互評価を行う。
中学年	ア 「お客様の声カード」を活用し、常時の活動を振り返る時間を設け、自己評価、相互評価を行う。
高学年	ア 「業績報告書」などを活用し、常時の活動を振り返る時間を設け、理解度、満足度などの観点から自己評価、相互評価を行う。

5 検証授業の成果と課題

(1) 身近な仕事を探すことについて

【②計画実行能力】【③意思決定能力】

低学年においても、「みんなに役立つ」という観点から必要な仕事について考えさせることで、主体的に常時活動に取り組むきっかけとなることが分かった。一方、特に低学年では子供たちの生活経験を踏まえてじっくり考えさせる必要がある。

(2) 振り返りの時間の工夫について

【①コミュニケーション能力】【④自他の理解能力】

どの学年においても「振り返りの時間」を設け、自己評価だけでなく相互評価を取り入れ、結果を伝え合うことで、自分の仕事に対して客観的に見直すことができ、また新たな活動を考えるきっかけとなった。しかし、相手に対して、自分の考えを伝えることに対して苦手意識をもつ子供が増えていることから、自分の考えを相手に伝えること、相手の考えを受け止めること、またそこにおける教師のかかわりや支援する内容について検討することが必要である。

(3) 将来への夢や希望、未来へ憧れる自己イメージについて

今回の活動を通して、児童に将来への夢や希望につながるような仕事をやり遂げる喜びや、仕事をすることの大切さ、楽しさといった勤労観を養うことができた。しかし、本実践だけでは、未来へ憧れる自己イメージにつながるような、自分自身に対する有用感を感じさせるまでには至らなかった。

IV 考察

子供たちがキャリア教育を通して、「夢や希望をはぐくみ、未来へ憧れる自己イメージ」を獲得していくためには、以下の点に留意しなければならない。

- ① キャリア発達に繋がる教育活動は、継続的かつ見通しをもった系統的な教育計画のもとに行われることが必要である。
- ② 児童と1日の長い時間を過ごすことができる小学校の特色を生かすためにも、学級活動もキャリア教育の実践の場として有効に活用することが大切である。